

シュミット村木真寿美氏によるクーデンホフ・カレルギー・光子に関する講演会

“シンデレラでもマダム・バタフライでもなく”

陸の国境のない国から来た私は、深い考えもなく、ドイツとチェコの国境近くにある城の廃墟の前に立ち、ここにかつて住んだという一人の日本女性を覆う歴史に引き込まれました。その人は、ともすれば日本でシンデレラ物語として語られているクーデンホーフ光子です。素通りするはずだった城の中から、過ぎた時代への誘いが聞こえ、結局明治から昭和への日本とヨーロッパの歴史の旅をしてしまいました。

講演者：シュミット村木真寿美

ピアノ演奏：野平枝理

演奏曲目

宮城道雄「桜変奏曲」／滝廉太郎「荒城の月」／
杉山長谷夫「花嫁人形」／ベートーベン「Bagatelle」
(YAMAHA グランドピアノ使用)

プロフィール

シュミット村木真寿美（講演者）

1942年東京生まれ。早稲田大学卒業(文学修士)、ストックホルム大学、ミュンヘン大学で学び、バイエルン・カソリック社会福祉大学卒業(社会教育主事)

1968年よりミュンヘンに在住し日本語でノンフィクション作品を発表。

代表作としては、「花ベルツへの旅」「レイモンさんのハムはボヘミアの味」「ミツコと七人の子供達(ドイツ語版 "Die Graefin kam aus Tokyo")」「もう神風は吹かない」「ロースハムの誕生」等がある。

また、作家活動の傍ら文化に橋を架けるために欧州五カ国に七つの石庭を作庭。

「花ベルツの庭」カールスバード(現チェコ、カルロヴィーヴァリイ)、「交龍の庭」フルトイムヴァルト(ドイツ)、「ミツコ・クーデンホーフ＝カレルギー記念石庭」メードリング(オーストリア)、「リヒアルト・クーデンホーフ＝カレルギー記念平和石庭」ロンスペルグ(現チェコ共和国ポビエチョヴィツェ)他

その他、草津ベルツ牌(1990)カールスバード名誉賞(1999)ロンスペルグ名誉市民

(2014)カールスバード名誉市民(2014)日本国外務大臣賞(2016)フルトイムヴァルト市民章(2016)ボヘミア・ババリア・センター橋を架ける人への賞(2017)等を受賞。

野平枝理（ピアノ）

1991年、札幌生まれ。四才からピアノのレッスンを始める。

2009年東京の桐朋学園音楽大学入学し、卒業後2015年、ドイツのフライブルグ音楽大学に入学、2017年にマスターコースを修了。続いて、Christoph Siska教授の元で、国家演奏家資格課程を修了。その他、Michel Beroff, Oxana Yablonskaya, Markus Groh, Björn Lehmann, Arnulf von Arnim等の指導の下でマイスターコースに参加。

第6回東京国際ピアノコンクールに入賞、第25回ローマ・ピアノコンクールで第2位、第23回Citta di Cortemiliaで第1位、JuricaNurai記念クロアチアピアノコンクール第3位等を受賞。国際的に活躍中。

日時：6月27日(木) 14:00～15:30

会場：BEL ETAGE SAAL (Parkring 2, 1010 Wien)

協力：L. Bösendorfer Klavierfabrik GmbH
S.OGUMA

主催：喫日協会